特別支援教育の扉 №8　　令和４年７月４日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「進路をキーワードに前へ」

発達障害の診断のある中学3年のＡさんは、午後から登校し、参加できるのは学校行事や部活動に限られていました。保護者は悩みながらも、「無理な登校刺激を与えないように」という主治医の方針を守り、我が子に対して積極的に登校を促すことはしませんでした。

４月、学校は「進路」をキーワードに動きました。両親揃っての保護者面談や生徒との進路面談の実施、入試までのスケジュールの提示、心理検査の結果や主治医の助言の共有、関係機関とのケース会議の開催、引継ぎ資料にも活用することを前提にした「個別の支援計画」の作成等、生徒が安心して楽しく登校できる環境づくりに努めました。その結果、父親と本人の考え方に変化が見られ、午前中の登校ができるようになり、先日は高校進学を意識して定期テストを受けるなど、少しずつ前へ歩き出しました。

１　進路指導のキーワード

〇自分で選ぶ（自己選択・自己決定）：自分で選んだという意識があれば頑張れる。
〇自分の目的がもてる（自己実現）：明確な目的があると努力ができ、踏ん張れる。
〇自分の苦手を知る（自己理解・自己肯定感）：得意な面や代替手段でカバーする。

２　不登校等の生徒が高校で適応できる背景

〇中学校から不登校、発達障害等に関する情報提供がされるようになったり、保護者が積極的に相談したりするケースが増え、校内支援体制づくりが進めやすくなった。
〇合格後に「地生研」で、入学後に必要な情報が得られるようになった。
〇周囲の生徒が多様性を認め合い、気になる生徒とうまく付き合うことができている。
〇専門高校では、対人スキルが苦手でも、好きな実習を通して自己肯定感が高まり、就労を目標に頑張れる。
〇高校入学を機に本人が変わりたい気持ちが強く、自己理解が促進される。（例：知らない人がいる遠くの高校でリセットする、好きな部活動で力を発揮するなど）

とれたて直送便

〇特別支援学校就労・職場定着促進事業　職場定着対策会議（秋田県特別支援教育課主催）

・７月１日（金）、能代支援学校を会場に特別支援学校卒業生の職場定着と、中学部（中学校）段階から取り組む職業教育の意義について情報交換を行いました。学校関係者として能代第一中学校と能代東中学校の先生も出席して自校の取組を紹介しました。

１　職場定着の条件

・定着する人は、自己表現が豊かである。特に困ったときに援助を求めるコミュニケーションスキル（助けて、教えて）が身に付いている。

２　職業教育に取り組む意義

・中学校では、卒業後の自立に向けて自己理解や自己啓発を進めている。生徒が自分で目標を立てて、丁寧な振り返りを続けながら、自己肯定感を高めている。
・中学部では、物を作る人、物を運ぶ人、物を売る人等、社会全体の仕組みを実感できる職場体験を計画して、働く意義の理解や働く意欲を育むことにつなげている。

・社会に出るためには、どういう心構えで臨むのかという「心のあり方」が大切です。「あり方」が身に付いていれば、「やり方」は自分で考えられるようになります。
・能代支援学校中学部では、能代山本地区の中学校と、作業学習（木工班・ハーブ加工班・農園芸班）等を通した交流、見学、体験を計画しています。希望する場合は、直接、能代支援学校（☎0185-55-0691）にお申し込みください。